

施工状況等報告書

2019 年 10 月 31 日

長野県知事 阿部 守一 様

佐久市長 柳田 清二 様
小諸市長 小泉 俊博 様
御代田町長 小園 拓志 様
軽井沢町長 藤巻 進 様

所在地 長野県佐久市中込 3056 番地佐久市役所内
名 称 佐久市・北佐久郡環境施設組合
組合長 柳田 清二

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項の規定により、下記のとおり送付します

記

対 象 事 業 の 名 称	新クリーンセンター建設事業
報 告 対 象 期 間	2019 年 7 月 1 日から 2019 年 9 月 30 日まで
環境の保全のための措置	詳細は別紙添付資料のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	建設地では、施設本体建設工事が行われています。 【施設本体建設工事】 事務所棟の鉄骨工事、工場棟の建築工事、プラント機械の設置工事を行っています。

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

施工状況等報告書添付資料「環境保全措置実施状況一覧表」

期間: 2019年7月1日～2019年9月30日

環境影響 評価項目	保 全 対象種	措置 項目	措置内容	添付書類	
植 物	ヤ エ ガ ワ カ ン バ	成 木 の 移 植	7月12日に平成27年4月18日移植個体の生育確認（樹木活力度調査）及び管理 十分に展葉したが一部の枝が枯れて葉の量が少ない。枝のキノコにはやや生長した様子が見られる。	写真ヤエ-1, 2	
		成 木 の 移 植	8月16日に平成27年4月18日移植個体の生育確認（樹木活力度調査）及び管理 十分に展葉したが一部の枝が枯れて葉の量が少ない。枝のキノコには一部にやや生長した様子が見られる。	写真ヤエ-3, 4	
		成 木 の 移 植	9月3日に平成27年4月18日移植個体の生育確認（樹木活力度調査）及び管理 一部の枝は枯れて葉の量が少ない。他は十分に展葉している。枯枝No. 4は新たなキノコの発生が認められる（右下3箇所）。	写真ヤエ-5, 6, 7	
	種 子 の 保 存 及 び 播 種 、 育 苗	ヤ エ ガ ワ カ ン バ	種 子 の 保 存 及 び 播 種 、 育 苗	7月12日に播種個体の生育確認及び管理 1) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 平成30年3月8日に事業実施区域内に移植（植樹）した幼木3個体は樹高78.0cm～101.0cmで伸長が進み、根元直径も10～17mmで太くなり、十分に展葉した。 No. ⑤は葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 なお、苗木を移植した周辺の（ヤエガワカンバ成木の周囲とオニヒョウタンボクの周囲を含め）除草を行った。 2) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ④ 樹高27.0cm、根元直径8mm。十分に展葉した。 3) 平成28年4月18日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高41.0cm、根元直径11mm。十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなった。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 4) 平成29年4月21日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高33.5cm、根元直径7mm。十分に展葉し、樹高もやや伸びた。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 5) 平成30年4月10日播種個体の生育確認及び管理 ポット30個へ植え替えた幼木150本は樹高8.5cm～16.5cm。順調に生長し、樹高もやや伸びた。	写真ヤエ- 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16
			種 子 の 保 存 及 び 播 種 、 育 苗	8月16日に播種個体の生育確認及び管理 1) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 平成30年3月8日に事業実施区域内に移植（植樹）した幼木3個体は樹高101.0cm～135.0cmで伸長がさらに進み、根元直径も12～19mmで太くなり、十分に展葉した。枝張りも広がり、一部ネットからはみ出す勢いである。個体No. ⑤は葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 2) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ④ 樹高30.0cm、根元直径8mm。十分に展葉し、樹高もさらに伸びている。 3) 平成28年4月18日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高44.0cm、根元直径12mm。十分に展葉し、樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 4) 平成29年4月21日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高37.0cm、根元直径8mm。十分に展葉し、樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 5) 平成30年4月10日播種個体の生育確認及び管理 ポット30個へ植え替えた幼木150本は樹高10.0cm～23.5cm。順調に生長し、樹高も伸びている。	写真ヤエ- 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24
			種 子 の 保 存 及 び 播 種 、 育 苗		

環境影響評価項目	保全対象種	措置項目	措置内容	添付書類
植 物	ヤエガワカンバ	種子の保存及び播種、育苗	<p>9月3日に播種個体の生育確認及び管理</p> <p>1) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 平成30年3月8日に事業実施区域内に移植（植樹）した幼木3個体は樹高110.0cm～164.0cmで伸長がさらに進み、個体No. ⑤はネット高を超えていた。根元直径も13～20mmで太くなり、枝張りも広がり、一部ネットからはみ出す勢いである。個体No. ⑤は葉の形状からシラカンバの可能性が高い。</p> <p>2) 平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ④ 樹高30.0cm、根元直径10mm。十分に展葉し、根元直径も太くなっている。</p> <p>3) 平成28年4月18日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高44.0cm、根元直径12mm。樹高、根元直径に変化はない。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。</p> <p>4) 平成29年4月21日播種個体の生育確認及び管理 個体No. ① 樹高38.0cm、根元直径10mm。樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。</p> <p>5) 平成30年4月10日播種個体の生育確認及び管理 ポット30個へ植え替えた幼木150本は樹高12.0cm～26.0cm。順調に生長し、樹高も伸びている。</p>	写真ヤエ-25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32
		成木の移植	<p>9月3日に平成27年4月20日移植個体（No. 1～No. 8）の状況確認（樹木活力度調査） 全ての個体で順調に展葉し、黄葉が始まっていた。個体No. 5とNo. 6の一部の葉にカビによる白斑が見られ、個体No. 7とNo. 8の一部の葉に虫食い跡が見られた。なお、個体No. 7にフジの蔓が巻き付いていたため除去した。</p>	写真オニ-1, 2, 3, 4
		種子の保存及び播種、育苗	<p>7月12日に播種個体及び挿し木個体の育苗状況確認</p> <p>1) 平成29年6月29日播種個体の育苗状況確認 No. ③は樹高6.0cm、根元直径3mm。根元直径がやや太くなっている。</p> <p>2) 平成29年3月14日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） No. ⑰は樹高23.0cm、根元直径6mm</p> <p>3) 平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） 発根まで半日陰で発根後に日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本中4本で葉あり。 挿し木から発根後まで日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本全てで葉が無くなる。</p>	写真オニ-5, 6, 7, 8
		種子の保存及び播種、育苗	<p>8月16日に播種個体及び挿し木個体の育苗状況確認</p> <p>1) 平成29年6月29日播種個体の育苗状況確認 個体No. ③は樹高6.0cm、根元直径3mm。樹高、根元直径に変化はない。</p> <p>2) 平成29年3月14日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） 個体No. ⑰は樹高23.0cm、根元直径6mm。樹高、根元直径に変化はない。葉の一部が枯れている。</p> <p>3) 平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） 発根まで半日陰で発根後に日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本中4本で葉あり。 挿し木から発根後まで日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本全てで葉が無くなる。</p>	写真オニ-9, 10, 11, 12


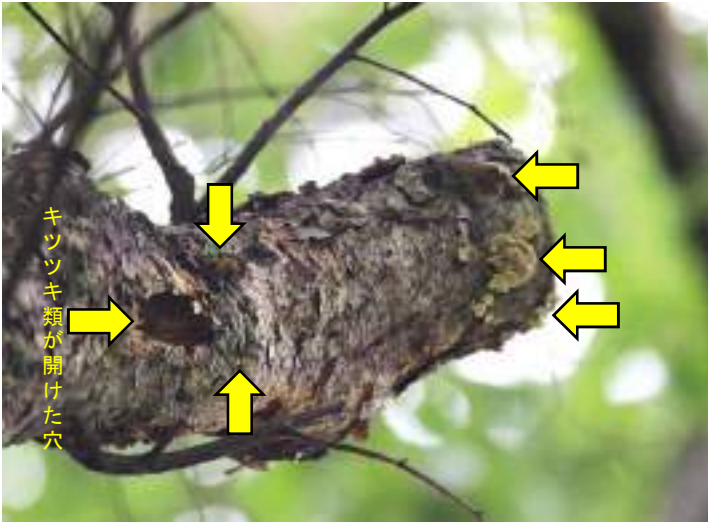

環境影響評価項目	保全対象種	措置項目	措置内容	添付書類
植物	オニヒョウタンボク	種子の保存及び播種、育苗	9月3日に播種個体及び挿し木個体の育苗状況確認 1) 平成29年6月29日播種個体の育苗状況確認 No. ③は樹高6.0cm、根元直径3mmで変化はない。 2) 平成29年3月14日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） No. ⑩は樹高23.0cm、根元直径6mmで変化はない。葉の一部が枯れている。 3) 平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認（発根促進剤使用） 発根まで半日陰で発根後に日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本中4本で葉あり。 挿し木から発根後まで日向で育苗（駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗）の18本全てで葉が無くなる。日照条件の違いにより活着しなかったことが考えられ、今後は全ての挿し穂を半日陰で挿し木して育苗することを検討する。	写真オニ-13, 14, 15, 16
	ギンラン	生育個体の森林整備・移植	9月3日に移植先の周辺環境整備 移植先及び周辺の林内で林床の低木や草本を鎌と草刈り機で刈り込み作業を行い、枯れ木の倒木（支障木）をチェーンソーで除去した。 なお、5月の事後調査で13個体のギンランの開花を確認した周辺の林内ではギンランが種子を付けていた。	写真ギン-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
	ノジトラノオ	粉じんの防止	8月28日に事業実施区域に隣接する林縁部（改変区域外）のノジトラノオ生育状況確認 保護のためのロープ張りの内外で21個体の生育を確認し、開花した後の花穂を2個体確認した。また、少し離れた場所で新たに8個体の生育を確認した。 粉じんによる影響は見られない。	写真ノジ-1, 2, 3
	ヌマガヤツリ	粉じんの防止	9月26日に生育個体の生育状況調査 対象事業実施区域外（対象事業実施区域に隣接する佐久スキーガーデンパラダの用地）で生育が確認されていた注目すべき種のヌマガヤツリであるが、工事による間接的影響が大きいと評価されていたため、生育状況を確認した。調査の結果、151個体の生育を確認し、粉じん等の付着は見られなかった。なお、スキー場脇の細流では生育数が減少しており、他の草本類の繁茂により減少したものと考えられる。	写真ヌマ-1, 2
	ツルナキケミノ	粉じんの防止	8月28日に移植先の生育状況確認 個体は移植当初の3個体から28個体が増え、生育範囲も広がっている。粉じんによる影響は見られない。	写真ナガ-1, 2
	ミズオオバコ	排水温度の監視	8月28日にミズオオバコの生育状況確認 3枚の水田で生育個体をカウントし、計52個体の生育を確認した。アオウキクサ属の繁茂や水田の畦の草本類繁茂の状況により、毎年、生育確認数にバラツキが生じる。 排水温度による影響は見られない。	写真ミズ-1, 2
	イヌハギ	粉じんの防止	9月3日に生育個体の生育状況調査 対象事業実施区域外（対象事業実施区域に隣接する佐久スキーガーデンパラダの用地）でイヌハギ2個体の生育を確認した。本種は環境省レッドリスト2019の絶滅危惧Ⅱ類（VU）と長野県レッドリスト2014の留意種（N）に該当する。なお、粉じん等の付着は見られない。	写真イヌ-1, 2, 3



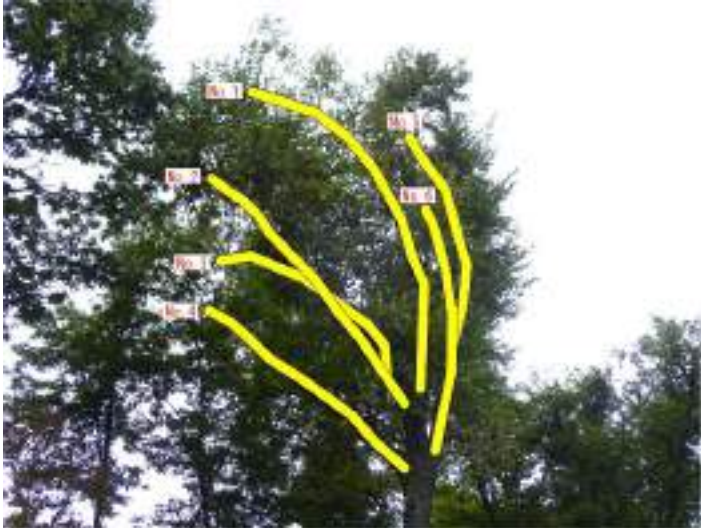
環境影響評価項目	保全対象種	措置項目	措置内容	添付書類
動物	ベニモンマダラ	生息基盤の移植	7月12日に生息基盤移殖先（平尾用水法面）における生育管理クサフジの生育量を把握するため、植被面積の計測を行った。面積は約17.9m ² で、昨年度の約17.0m ² より広がっていた。大きな株を形成する場所も見られ、開花状況も旺盛で健全に生育していた。また、イネ科植物の葉に付いたベニモンマダラの繭も確認された。なお、外来植物のオオブタクサの抜き取りを行った。	写真ベニ-1, 2, 3
		幼虫、成虫等の生息確認	7月25日にベニモンマダラ（成虫）の生息確認 生息基盤移殖先（平尾用水法面）では生息基盤移殖先で4個体の成虫を確認し、佐久スキーガーデンパラダのリフト付近で18個体、ゲレンデ付近で7個体の成虫を確認した。なお、ゲレンデの一部はキャンプ場として草刈りが施されていた。	写真ベニ-4
	クリイロベッコウ	移植先における個体の確認	6月14日に陸産貝類の採取を行い、その後同定（識別）を行い、7月17日に結果が以下のとおり出た。事業予定地南の移殖先においてクリイロベッコウの生貝2個体・死貝1個体を確認し、ヒダリマキゴマガイの生貝2個体・死貝6個体、ヒメベッコウガイの生貝1個体・死貝1個体、コオオベソマイマイの死貝1個体を確認した。 事業予定地東の移殖先ではクリイロベッコウは確認されなかったが、ツノイロヒメベッコウの死貝4個体、ヤクシマヒメベッコウの生貝1個体、カスミヒメベッコウの死貝2個体、キビガイの死貝1個体を確認した。	写真クリ-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
	希少猛禽類	確認対象事業実施区域の工期の変更に近くで営巣活動の検討	7月23日に定点観察 定点観察によりハチクマ5例、チョウゲンボウ1例を確認。注目行動としてはハチクマによる対象事業実施区域よりも東方で林内に入ったことや巣材運搬、チョウゲンボウが餌を探すことを確認した。ハチクマについては対象事業実施区域の東に位置する舟ヶ沢への出入りが多数確認された。	写真モウ-1
			7月24日に定点観察 定点観察によりハチクマ11例を確認。注目行動としては23日に引き続き、舟ヶ沢周辺での羽合わせディスプレイや林内に入ったことが複数回観察され、舟ヶ沢周辺での繁殖が示唆された。また、対象事業実施区域の西の山塊周辺で複数回出現し、林内に入った個体も確認された。	写真モウ-2, 3
			8月16日に定点観察 定点観察によりハチクマ1例、ハイタカ1例、クマタカ1例を確認。注目行動としては対象事業実施区域よりも東方の舟ヶ沢でハチクマの飛翔を確認した。ハイタカやクマタカは事業実施区域より東側遠方での出現であり、繁殖に関わる行動は確認されなかった。	写真モウ-4
			8月21日に定点観察 定点観察によりハチクマ7例、サシバ1例を確認。注目行動としては、対象事業実施区域よりも東方の舟ヶ沢付近でハチクマが林内に入ったことを確認し、事業実施区域よりも南方では別のハチクマによる羽合わせディスプレイを確認した。サシバは、事業地の南南東の平尾富士稜線上の高空を旋回上昇するのが確認された。先月までの調査において出現を確認していないこと、高度を上げて飛去したこと、毎年この時期に1、2例の確認があることから渡り途中の個体と考えられる。	写真モウ-5

環境影響評価項目	保全対象種	措置項目	措置内容	添付書類
動物	希少猛禽類	確認対象事業実施区域の区工期の変近更中等での営巣無活の動検が討	<p>8月23日に営巣確認</p> <p>7月にハチクマの巣材運搬が確認された事業地東側の舟ヶ沢では、舟ヶ沢右岸の小さな谷の中で中型猛禽類の巣(N14)を新たに確認した。巣での個体の確認や、糞や羽毛等、繁殖に使用した痕跡は確認されなかったが、定点調査の結果及び営巣地環境等からハチクマの巣である可能性が高いと考えられる。定点調査ではハチクマのこの付近への餌運搬は確認されず、他の猛禽類への排斥行動も見られなかったことから、繁殖途中で失敗した可能性が考えられる。</p> <p>昨シーズン、ハチクマの営巣・繁殖が確認された巣(N9)においては、今季に使用した痕跡は認められなかった。また、既知の古巣(N4)、(N6)の他、N6の南西で新たに中型猛禽類の古巣(N13)を確認したが、これらにおいても今季猛禽類が使用した痕跡は認められなかった。</p> <p>以上の結果から、調査範囲における今季のハチクマの繁殖は1ヶ所(N14)で、営巣したものの何らかの理由により繁殖に失敗したと考えられる。</p>	写真モウ-6, 7, 8, 9, 10
水象	地下水位	地下水位モニタリング	<p>7月26日に地下水位のモニタリングを実施。</p> <p>調査地点は対象事業実施区域周辺の3地点とした。</p> <p>各地点の結果は昨年度と同程度であり、地下水位の低下が見られないことから、地下水利用や地盤沈下への影響はほとんどないと考えられるため、新たな環境保全措置は実施しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査地点No. 1 : 788. 86m(昨年度同月 : 788. 47m) 調査地点No. 2 : 744. 08m(昨年度同月 : 743. 58m) 調査地点No. 3 : 724. 89m(昨年度同月 : 724. 86m) 	-
			<p>8月27日に地下水位のモニタリングを実施。</p> <p>調査地点は対象事業実施区域周辺の3地点とした。</p> <p>各地点の結果は昨年度と同程度であり、地下水位の低下が見られないことから、地下水利用や地盤沈下への影響はほとんどないと考えられるため、新たな環境保全措置は実施しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査地点No. 1 : 788. 57m(昨年度同月 : 788. 32m) 調査地点No. 2 : 743. 59m(昨年度同月 : 743. 43m) 調査地点No. 3 : 724. 81m(昨年度同月 : 724. 76m) 	-
			<p>9月27日に地下水位のモニタリングを実施。</p> <p>調査地点は対象事業実施区域周辺の3地点とした。</p> <p>各地点の結果は昨年度と同程度であり、地下水位の低下が見られないことから、地下水利用や地盤沈下への影響はほとんどないと考えられるため、新たな環境保全措置は実施しなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査地点No. 1 : 788. 37m(昨年度同月 : 787. 91m) 調査地点No. 2 : 743. 42m(昨年度同月 : 743. 68m) 調査地点No. 3 : 724. 61m(昨年度同月 : 724. 90m) 	写真チカ-1, 2, 3

- 公表・公開情報 -

発行	環境保全措置・事後調査実施状況（概要版）7月号
内容	<ol style="list-style-type: none"> ヤエガワカンバ成木・現場移植幼木の生育状況について オニヒョウタンボク幼木の生育状況について ギンランの生育状況について
方法	ホームページに掲載

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-1
	撮影日	R1.7.12
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>移植木の全景 十分に展葉したが一部の枝が 枯れ、葉の量が少ない。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-2
	撮影日	R1.7.12
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>キノコにはやや生長した様子 が見られる。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-3
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>移植木の全景 十分に展葉している。 一部の枝が枯れ、葉の量が 少ない状況は前月と同様。</p>	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-4
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>キノコにはやや生長した様子 が見られる。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-5
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>移植木の全景 一部の枝が枯れ、葉の量が少 ない部分はあるが、他は十分 に展葉している。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-6
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成27年4月18日移植個体の 生育確認(樹木活力度調査)及 び管理</p> <p>ヤエガワカンバの枝番号 No.1～3は順調に展葉 No.4はキノコが発生し枯れてい る。 No.5～6は先端部にキノコが発 生しているが、展葉は十分して いる。</p>	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-7
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成27年4月18日移植個体の生育確認(樹木活力度調査)及び管理</p> <p>平成29年4月に発生したキノコにより枯れた枝No.4の西側の面には、先月に無かった新たなキノコの発生が認められる(右下3箇所)。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-8
	撮影日	R1.7.12
	<p>平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理(植樹個体)</p> <p>個体No.③ 樹高78.0cm、根元直径12mm</p> <p>十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなっている。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-9
	撮影日	R1.7.12
	<p>平成27年4月23日播種個体の生育確認及び管理(植樹個体)</p> <p>個体No.⑤ 樹高90.0cm、根元直径12mm</p> <p>十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなっている。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。</p>	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-10
	撮影日	R1.7.12
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹個体) 個体No.⑦ 樹高101.0cm、株立ち(根元直 径17mm、15mm、10mm) 十分に展葉し、樹高も伸び、根 元直径も太くなっている。枝張 りも広がり、ネットからはみ出す 勢いである。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-11
	撮影日	R1.7.12
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理 苗木を移植した周辺の(ヤエガ ワカンバ成木の周囲とオニヒョ ウタンボクの周囲を含め)除草 を行った。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-12
	撮影日	R1.7.12
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.④(左側) 樹高27.0cm、根元直径8mm 十分に展葉した。	




	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-13
	撮影日	R1.7.12
	平成28年4月18日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.①(中央) 樹高41.0cm、根元直径11mm 十分に展葉し、樹高も伸び、根 元直径も太くなった。葉の形状 からシラカンバの可能性が高 い。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-14
	撮影日	R1.7.12
	平成29年4月21日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.① 樹高33.5cm、根元直径7mm 十分に展葉し、樹高もやや伸 びた。葉の形状からシラカンバ の可能性が高い。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-15
	撮影日	R1.7.12
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.1～16 樹高8.5cm～16.5cm 順調に生長し、樹高もやや伸 びた。	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-16
	撮影日	R1.7.12
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.17~30 樹高9.5cm~15.0cm 順調に生長し、樹高もやや伸 びた。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-17
	撮影日	R1.8.16
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹个体) 个体No.③ 樹高101.0cm、根元直径12mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 びている。枝張りも広がり、一 部ネットからはみ出す勢いであ る。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-18
	撮影日	R1.8.16
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹个体) 个体No.⑤ 樹高135.0cm、根元直径15mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなってい る。枝張りも広がり、一部ネット からはみ出す勢いである。葉 の形状からシラカンバの可能 性が高い。	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-19
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹個体) 個体No.⑦ 樹高124.0cm、株立ち(根元直 径19mm、17mm、12mm) 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなってい る。枝張りも広がり、ネットから はみ出す勢いである。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-20
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.④ 樹高30.0cm、根元直径8mm 十分に展葉した。樹高もさらに 伸びている。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-21
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成28年4月18日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.①(中央) 樹高44.0cm、根元直径12mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなった。葉 の形状からシラカンバの可能 性が高い。</p>	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-22
	撮影日	R1.8.16
	平成29年4月21日播種個体の 生育確認及び管理 個体No.① 樹高37.0cm、根元直径8mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなった。葉 の形状からシラカンバの可能 性が高い。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-23
	撮影日	R1.8.16
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.1～16 樹高10.0cm～23.5cm 順調に生長し、樹高も伸びてい る。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-24
	撮影日	R1.8.16
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.17～30 樹高12.5cm～20.0cm 順調に生長し、樹高も伸びてい る。	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-25
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹個体) 個体No.③ 樹高110.0cm、根元直径15mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなってい る。枝張りも広がり、一部ネット からはみ出す勢いである。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-26
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹個体) 個体No.⑤ 樹高164.0cm、根元直径17mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、ネット高を超えている。根 元直径も太くなっている。枝張 りも広がり、一部ネットからは み出す勢いである。葉の形状 からシラカンバの可能性が高 い。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-27
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理(植樹個体) 個体No.⑦ 樹高138.0cm、株立ち(根元直 径20mm、18mm、13mm) 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなってい る。枝張りも広がり、ネットか らはみ出す勢いである。	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-28
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成27年4月23日播種個体の 生育確認及び管理</p> <p>個体No.④ 樹高30.0cm、根元直径10mm</p> <p>十分に展葉した。根元直径も 太くなっている。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-29
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成28年4月18日播種個体の 生育確認及び管理</p> <p>個体No.①(中央) 樹高44.0cm、根元直径12mm</p> <p>十分に展葉した。樹高、根元直 径に変化はない。葉の形状か らシラカンバの可能性が高い。</p>	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-30
	撮影日	R1.9.3
	<p>平成29年4月21日播種個体の 生育確認及び管理</p> <p>個体No.①</p> <p>樹高38.0cm、根元直径10mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸 び、根元直径も太くなった。葉 の形状からシラカンバの可能 性が高い。</p>	

	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-31
	撮影日	R1.9.3
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.1～16 樹高12.0cm～26.0cm 順調に生長し、樹高も伸びてい る。	
	保 全 対象種	ヤエガワカンバ
	写 真 番 号	ヤエ-32
	撮影日	R1.9.3
	平成30年4月10日播種個体の 生育確認及び管理 No.17～30 樹高14.0cm～23.5cm 順調に生長し、樹高も伸びてい る。	

	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-1
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月20日移植個体の 状況確認(樹木活力度調査) 個体No.6 十分に展葉し、黄葉が始まっ ている。一部の葉にカビによる 白斑が見られる。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-2
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月20日移植個体の 状況確認(樹木活力度調査) カビによる白斑の様子。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-3
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月20日移植個体の 状況確認(樹木活力度調査) 虫食い跡の様子。	

	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-4
	撮影日	R1.9.3
	平成27年4月20日移植個体の 状況確認(樹木活力度調査) 巻き付いていたフジ蔓(除去し た)。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-5
	撮影日	R1.7.12
	平成29年6月29日播種個体の 育苗状況確認(ポット) 個体No.③ 樹高6.0cm、根元 直径3mm 根元直径がやや太くなる。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-6
	撮影日	R1.7.12
	平成29年3月14日挿し木個体 の育苗状況確認(発根促進剤 使用) 個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元 直径6mm	

	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	7オニ-7
	撮影日	R1.7.12
	平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用) 発根まで半日陰で発根後に日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗) 18本中の4本で葉あり。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-8
	撮影日	R1.7.12
	平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用) 挿し木から発根後まで日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗) 18本全てで葉が無くなる	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-9
	撮影日	R1.8.16
	平成29年6月29日播種個体の育苗状況確認(ポット) 個体No.③ 樹高6.0cm、根元直径3mm 樹高、根元直径に変化はない。	

	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-10
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成29年3月14日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用)</p> <p>個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元直径6mm</p> <p>樹高、根元直径に変化はない。葉の一部が枯れている。</p>	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-11
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用)</p> <p>発根まで半日陰で発根後に日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗)</p> <p>18本中の4本で葉あり。</p>	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-12
	撮影日	R1.8.16
	<p>平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用)</p> <p>挿し木から発根後まで日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗)</p> <p>18本全てで葉が無くなる。</p>	

	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-13
	撮影日	R1.9.3
	平成29年6月29日播種個体の 育苗状況確認(ポット) 個体No.③ 樹高6.0cm、根元 直径3mm 樹高、根元直径に変化はない。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-14
	撮影日	R1.9.3
	平成29年3月14日挿し木個体の 育苗状況確認(発根促進剤 使用) 個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元 直径6mm 樹高、根元直径に変化はない。葉の一部が枯れている。	
	保 全 対象種	オニヒョウタンボク
	写 真 番 号	オニ-15
	撮影日	R1.9.3
	平成31年3月8日挿し木個体の 育苗状況確認(発根促進剤 使用) 発根まで半日陰で発根後に日 向で育苗(駄温鉢平鉢とポリ ポットごとに鹿沼土、赤玉土、 赤玉土+腐葉土で育苗) 18本中の4本で葉あり。	



保 全 対象種	オニヒョウタンボク
写 真 番 号	オニ-16
撮影日	R1.9.3
平成31年3月8日挿し木個体の育苗状況確認(発根促進剤使用)	
挿し木から発根後まで日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗) 18本全てで葉が無くなる。日照条件の違いにより活着しなかったことが考えられる。	

	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-1
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 林床の低木や草本の刈り込み作業(鎌と草刈り機による作業)	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-2
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 枯れ木の倒木(支障木)の除去作業(チェーンソーによる作業)	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-3
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成25年度ギンラン確認場所 作業前	

	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-4
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成25年度ギンラン確認場所 作業後	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-5
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成27年度移植場所 作業前	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-6
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成27年度移植場所 作業後	

	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-7
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成28年度移植場所 作業前	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-8
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 平成28年度移植場所 作業後	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-9
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 移植地の周辺 作業前	

	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-10
	撮影日	R1.9.3
	移植先の周辺環境整備 移植地の周辺 作業後	
	保全対象種	ギンラン
	写真番号	ギン-11
	撮影日	R1.9.3
	生育個体の確認 今年度5月に13個体を確認した周辺の林内ではギンランが種子を付けていた。	

	保 全 対象種	ノジトラノオ
	写 真 番 号	ノジ-1
	撮影日	R1.8.28
	<p>事業実施区域に隣接する林縁部(改変区域外)のノジトラノオ生育状況確認</p> <p>保護のためのロープ張りの内外を含めて21個体の生育を確認した。 粉じんによる影響は見られない。</p>	
	保 全 対象種	ノジトラノオ
	写 真 番 号	ノジ-2
	撮影日	R1.8.28
	<p>事業実施区域に隣接する林縁部(改変区域外)のノジトラノオ生育状況確認</p> <p>花期は過ぎていたが、開花した後の花穂を2個体確認した。</p>	
	保 全 対象種	ノジトラノオ
	写 真 番 号	ノジ-3
	撮影日	R1.8.28
	<p>事業実施区域に隣接する林縁部(改変区域外)のノジトラノオ生育状況確認</p> <p>これまで生育を確認していた場所からやや離れた場所に新たにノジトラノオの生育を確認した。 新たな生育場所では8個体を確認した。</p>	

	保 全 対象種	ヌマガヤツリ
	写 真 番 号	ヌマ-1
	撮影日	R1.9.26
	生育個体の生育状況調査 ヌマガヤツリは対象事業実施区域に隣接する佐久スキーガーデンパラダの用地内に大小合わせて151個体が生育していた。粉じん等の付着は見られない。 なお、スキー場脇の細流では生育数が減少しており、他の草本類の繁茂により減少したものと考えられる。	
	保 全 対象種	ヌマガヤツリ
	写 真 番 号	ヌマ-2
	撮影日	R1.9.26
	生育個体の生育状況調査 生育を確認したヌマガヤツリ。	

	保 全 対象種	ナガミノツルキケマン
	写 真 番 号	ナガ-1
	撮影日	R1.8.28
移植先の生育状況確認		
移植地の全景		
	保 全 対象種	ナガミノツルキケマン
	写 真 番 号	ナガ-2
	撮影日	R1.8.28
生育状況確認		
<p>個体は移植当初の3個体が28 個体に加え、生育範囲も広 がっている。 粉じんによる影響は見られな い。</p>		

	保 全 対象種	ミズオオバコ
	写 真 番 号	ミズ-1
	撮影日	R1.8.28
	生育状況確認 ミズオオバコの生育する水田	
	保 全 対象種	ミズオオバコ
	写 真 番 号	ミズ-2
	撮影日	R1.8.28
	生育状況確認 3枚の水田で計52個体の生育を確認した。排水温度による影響は見られない。 なお、アオウキクサ属の繁茂や水田の畦の草本類繁茂の状況により、毎年、生育確認数にバラツキが生じる。	




	保 全 対象種	イヌハギ
	写 真 番 号	イヌ-1
	撮影日	R1.9.3
	生育個体の生育状況確認 対象事業実施区域外(対象事業実施区域に隣接する佐久スキーガーデンパラダの用地)でイヌハギ2個体の生育を確認した。環境省レッドリスト2019の絶滅危惧Ⅱ類(VU)と長野県レッドリスト2014の留意種(N)に該当する。粉じん等の付着は見られない。	
	保 全 対象種	イヌハギ
	写 真 番 号	イヌ-2
	撮影日	R1.9.3
	生育個体の生育状況確認 開花した2個体の生育を確認した。	
	保 全 対象種	イヌハギ
	写 真 番 号	イヌ-3
	撮影日	R1.9.3
	生育個体の生育状況確認 生育を確認したイヌハギ。	




	保 全 対象種	ベニモンマダラ
	写 真 番 号	ベニ-1
	撮影日	R1.7.12
	<p>生息基盤移殖先(平尾用水法面)における生育管理</p> <p>クサフジの生育量を把握するため、植被面積の計測を行った。面積は約17.9m²で、昨年度の約17.0m²より広がっていた。</p>	
	保 全 対象種	ベニモンマダラ
	写 真 番 号	ベニ-2
	撮影日	R1.7.12
	<p>生息基盤移殖先(平尾用水法面)における生育管理</p> <p>クサフジの花 開花状況も旺盛で健全に生育している。</p>	
	保 全 対象種	ベニモンマダラ
	写 真 番 号	ベニ-3
	撮影日	R1.7.12
	<p>生息基盤移殖先(平尾用水法面)における生育管理</p> <p>ベニモンマダラの繭</p> <p>イネ科植物の葉に付いたベニモンマダラの繭も確認された。</p>	



保 全 対象種	ベニモンマダラ
写 真 番 号	ベニ-4
撮影日	R1.7.25
ベニモンマダラ(成虫)の生息 確認	
佐久スキーガーデンパラダの ゲレンデ付近で生息を確認し たベニモンマダラの成虫	

	保 全 対象種	クリロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-1
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でクリロベッコウ(環境省RL2019の情報不足、長野県RL2015の留意種)の生貝を2個体確認した。個体の殻径は約8mm。</p>	
	保 全 対象種	クリロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-2
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でクリロベッコウ(環境省RL2019の情報不足、長野県RL2015の留意種)の生貝を2個体確認した。個体の殻径は約7.5mm。</p>	
	保 全 対象種	クリロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-3
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でクリロベッコウ(環境省RL2019の情報不足、長野県RL2015の留意種)の死貝を1個体確認した。個体の殻径は約7mm。</p>	

	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-4
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でヒダリマキゴマガイ(普通種)の生貝2個体、死貝6個体を確認した。個体の殻径は1mm前後。</p>	
	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-5
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/21)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でヒメベッコウガイ(普通種)の生貝1個体、死貝1個体を確認した。写真個体の殻径は約2.5mm。</p>	
	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-6
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点③(事業予定地南)の落葉広葉樹林内移殖地でコオオベソマイマイ(普通種)の死貝を1個体確認した。個体の殻径は約6mm。</p>	

	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-7
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点④(事業予定地東)の落葉広葉樹林内移殖地でツノイロヒメベッコウ(普通種)の死貝を4個体確認した。写真個体の殻径は約4.5mm。</p>	
	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-8
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点④(事業予定地東)の落葉広葉樹林内移殖地でヤクシマヒメベッコウ(普通種)の生貝を1個体確認した。写真個体の殻径は約1.5mm。</p>	
	保 全 対象種	クリイロベッコウ
	写 真 番 号	クリ-9
	撮影日	R1.6.14
	<p>移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果</p> <p>地点④(事業予定地東)の落葉広葉樹林内移殖地でカスミヒメベッコウ(普通種)の死貝を2個体確認した。写真個体の殻径は約1.8mm。</p>	



保全対象種	クリイロベッコウ
写真番号	クリ-10
撮影日	R1.6.14
移殖先における個体の生息確認(実施日:6/14)※同定(識別)結果	
地点④(事業予定地東)の落葉広葉樹林内移殖地でキビガイ(普通種)の死貝を1個体確認した。写真個体の殻径は約1.5mm。	

	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-1
	撮影日	R1.7.23
	確認種:ハチクマ成鳥(雄) 対象事業実施区域東に位置する舟ヶ沢方向の林内へ入ることや巣材運搬を行った雄成鳥。	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-2
	撮影日	R1.7.24
	確認種:ハチクマ成鳥(雄) 舟ヶ沢周辺で羽合わせディスプレイ飛翔を行い、林内に入った雄成鳥(前掲写真の雄成鳥と同一個体)。	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-3
	撮影日	R1.7.24
	確認種:ハチクマ成鳥(雄) 対象事業実施区域の西の山塊周辺で複数回出現し、林内に入った雄成鳥(前掲写真の雄成鳥とは別個体)。	

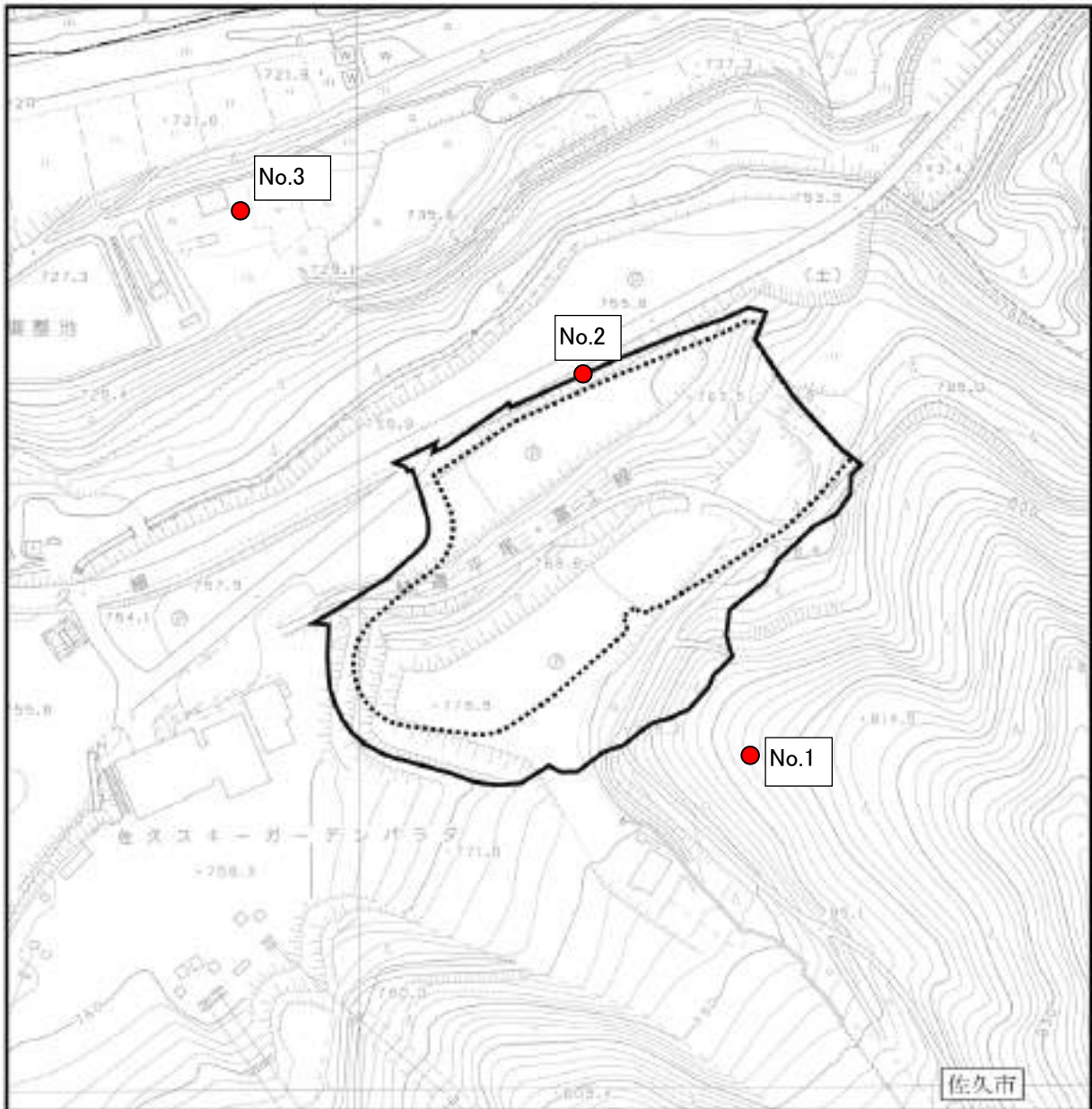
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-4
	撮影日	R1.8.16
	定点観察実施状況 主対象:ハチクマ、ハイタカ	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-5
	撮影日	R1.8.21
	確認種:ハチクマ成鳥(雄) 事業実施区域の南で確認された羽合わせディスプレイ飛行を行った個体。	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-6
	撮影日	R1.8.23
	営巣確認実施状況 対象:N14(遠景) 舟ヶ沢右岸の小さな谷の中で中型猛禽類の巣(N14)を新たに確認した。	

	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-7
	撮影日	R1.8.23
	営巣確認実施状況 対象:N14(近景) 巣での個体の確認や、糞や羽毛等、繁殖に使用した痕跡は確認されなかったが、定点調査の結果及び営巣地環境等からハチクマの巣である可能性が高いと考えられる。	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-8
	撮影日	R1.8.23
	営巣確認実施状況 対象:N9(近景) 昨年度にハチクマが繁殖した古巣N9においても今季猛禽類が使用した痕跡は認められなかった。	
	保 全 対象種	希少猛禽類
	写 真 番 号	モウ-9
	撮影日	R1.8.23
	営巣確認実施状況 対象:N13(遠景) 事業予定地東側の古巣N6の南西で新たに中型猛禽類の古巣(N13)を確認した。	



保全対象種	希少猛禽類
写真番号	モウ-10
撮影日	R1.8.23
営巣確認実施状況	
対象:N13(近景)	
今季猛禽類が使用した痕跡は認められなかった。	

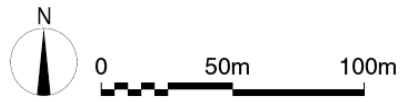
	保 全 対象種	地下水位
	写 真 番 号	チ力-1
	撮影日	R1.9.27
	地下水調査 調査実施状況 (写真は地点No.1)	
	保 全 対象種	地下水位
	写 真 番 号	チ力-2
	撮影日	R1.9.27
	地下水調査 調査実施状況 (写真は地点No.2)	
	保 全 対象種	地下水位
	写 真 番 号	チ力-3
	撮影日	R1.9.27
	地下水調査 調査実施状況 (写真は地点No.3)	



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 計画施設用地
- : 地下水位調査地点

----- : 市町界



地下水位調査地点






平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【ヤエガワカンバ】

対象期間【平成31年4月～令和1年11月】







【措置項目】成木の移植

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月18日に対象事業実施区域内より対象事業実施区域外へ移植を行い、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
	樹高12.2m(昨年12.0m)、胸高直径44.0cm(昨年41.0cm)、枝張り5.5m(昨年5.5m)であり、樹高と胸高直径が昨年より増えている。なお、発生しているキノコに生長などの変化は見られない。	展葉したが一部の枝が枯れている。キノコにはまだ目立った生長は見られない。	十分に展葉したが一部の枝が枯れ、葉の量が少ない。キノコにはまだ目立った生長は見られない。	十分に展葉したが一部の枝が枯れ、葉の量が少ない。キノコにはやや生長した様子が見られる。	十分に展葉している。一部の枝の枯れ、葉の量が少ない状況は前月と同様。キノコには一部にやや生長した様子が見られる。	十分に展葉している。一部の枝の枯れ、葉の量が少ない状況は前月と同様。一部に新たに発生したキノコが見られる。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
	撮影日:4月22日	撮影日:5月16日	撮影日:6月7日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					

【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月23日に播種し、平成30年3月8日に生育順調な3個体を対象事業実施区域内に移植。以降、生育状況のモニタリングを実施。											
	個体No.③ 樹高51.5cm、根元直径10mm 出葉はまだ見られない。	個体No.③ 樹高51.5cm、根元直径10mm 展葉した。	個体No.③ 樹高51.5cm、根元直径10mm 十分に展葉した。	個体No.③ 樹高78.0cm、根元直径12mm 十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなっている。	個体No.③ 樹高101.0cm、根元直径12mm 十分に展葉し、樹高もさらに伸びている。枝張りも一部ネットからはみ出す勢い。	個体No.③ 樹高110.0cm、根元直径15mm 樹高もさらに伸び、根元直径も太くなっている。枝張りも一部ネットからはみ出す勢い。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
	撮影日:4月22日	撮影日:5月16日	撮影日:6月7日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					







【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月23日に播種し、平成30年3月8日に生育順調な3個体を対象事業実施区域内に移植。以降、生育状況のモニタリングを実施。											
	個体No.⑤ 樹高42cm、根元直径9mm 出葉始まる。	個体No.⑤ 樹高42cm、根元直径10mm 展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。	個体No.⑤ 樹高58cm、根元直径10mm 十分に展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。	個体No.⑤ 樹高90.0cm、根元直径12mm 十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなっている。シラカンバの可能性が高い。	個体No.⑤ 樹高135.0cm、根元直径15mm。樹高もさらに伸び、根元直径も太くなっている。枝張りも一部ネットからはみ出す勢い。シラカンバの可能性が高い。	個体No.⑤ 樹高164.0cm、根元直径17mm。樹高もネット高を超えた。根元直径も太くなり、枝張りも一部ネットからはみ出す勢い。シラカンバの可能性が高い。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
	撮影日:4月22日	撮影日:5月16日	撮影日:6月7日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					

平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【ヤエガワカンバ】

対象期間【平成31年4月～令和1年11月】

【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月23日に播種し、平成30年3月8日に生育順調な3個体を対象事業実施区域内に移植。以降、生育状況のモニタリングを実施。									(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)		
	個体No.⑦ 樹高54cm、株立ち(根元直径14mm、11mm、7mm)出葉はまだ見られない。 撮影日:4月22日	個体No.⑦ 樹高56cm、株立ち(根元直径14mm、11mm、7mm)展葉した。 撮影日:5月16日	個体No.⑦ 樹高65cm、株立ち(根元直径14mm、11mm、7mm)十分に展葉した。 撮影日:6月7日	個体No.⑦ 樹高101.0cm、株立ち(根元直径17mm、15mm、10mm)十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなっている。枝張りもネットからはみ出す勢い。 撮影日:7月12日	個体No.⑦ 樹高124.0cm、株立ち(根元直径19mm、17mm、12mm)樹高もさらに伸び、根元直径も太くなっている。枝張りもネットからはみ出す勢い。 撮影日:8月16日	個体No.⑦ 樹高138.0cm、株立ち(根元直径20mm、18mm、13mm)樹高もさらに伸び、根元直径も太くなっている。枝張りも広がり、ネットからはみ出す勢い。 撮影日:9月3日					

【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月23日に播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。									(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)		
	個体No.④ 樹高26cm、根元直径7mm出葉はまだ見られない。 撮影日:4月22日	個体No.④(左側) 樹高26.5cm、根元直径7mm展葉した。 撮影日:5月16日	個体No.④(左側) 樹高26.5cm、根元直径8mm十分に展葉した。 撮影日:6月11日	個体No.④(左側) 樹高27.0cm、根元直径8mm十分に展葉した。 撮影日:7月12日	個体No.④ 樹高30.0cm、根元直径8mm樹高もさらに伸びている。 撮影日:8月16日	個体No.④ 樹高30.0cm、根元直径10mm根元直径も太くなっている。 撮影日:9月3日					







【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成28年4月18日に播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。									(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)		
	個体No.① 樹高33cm、根元直径8mm出葉始まる。 撮影日:4月22日	個体No.①(中央) 樹高34cm、根元直径8mm展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 撮影日:5月16日	個体No.①(中央) 樹高36cm、根元直径10mm十分に展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。 撮影日:6月11日	個体No.①(中央) 樹高41.0cm、根元直径11mm十分に展葉し、樹高も伸び、根元直径も太くなった。シラカンバの可能性が高い。 撮影日:7月12日	個体No.①(中央) 樹高44.0cm、根元直径12mm樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。シラカンバの可能性が高い。 撮影日:8月16日	個体No.①(中央) 樹高44.0cm、根元直径12mm樹高、根元直径に変化はない。シラカンバの可能性が高い。 撮影日:9月3日					


平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【ヤエガワカンバ】

対象期間【平成31年4月～令和1年11月】







【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月			
平成29年4月21日にプランターへ播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。												
	個体No.① 樹高28.5cm、根元直径7mm 出葉始まる。	個体No.① 樹高29cm、根元直径7mm 展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。	個体No.① 樹高31cm、根元直径7mm 十分に展葉した。葉の形状からシラカンバの可能性が高い。	個体No.① 樹高33.5cm、根元直径7mm 十分に展葉し、樹高もやや伸びた。シラカンバの可能性が高い。	個体No.① 樹高37.0cm、根元直径8mm 樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。シラカンバの可能性が高い。	個体No.① 樹高38.0cm、根元直径10mm 樹高もさらに伸び、根元直径も太くなった。シラカンバの可能性が高い。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)		
	撮影日:4月22日	撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日						

【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成30年4月10日に床蒔きし、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
	床蒔き 発芽個体(実生)消失	床蒔き 実生が消失したため生育確認を中止。									
	撮影日:4月22日										



【措置項目】幼木の育苗

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月			
平成30年4月10日にプランターへ播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。												
	プランター蒔き 出葉はまだ見られない。この後、プランターからポットへ植え替えを行う(1ポットに幼木5本ずつ、計30ポット幼木150本)。	樹高2.5cm～7.5cm、根元直径1mm 展葉した。	樹高5.5cm～11.5cm 順調に生育している。	樹高8.5cm～16.5cm 順調に生育し、樹高もやや伸びた。	樹高10.0cm～23.5cm 順調に生育し、樹高も伸びている。	樹高12.0cm～26.0cm 順調に生育し、樹高も伸びている。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)		
	撮影日:4月22日	撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日						


平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【オニヒョウタンボク】

対象期間【令和1年5月～令和1年11月】






【措置項目】成木の移植 ※成木の生育状況が順調であることからモニタリングは令和1年5月と9月に実施。

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年4月20日に対象事業実施区域内より対象事業実施区域外へ移植を行い、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
		全ての個体で順調に展葉して開花している。一部の個体に結実も見られる。				全ての個体で黄葉が始まる。一部の個体の葉にカビによる白斑や虫の食痕が認められる。また、フジの蔓が巻き付いている個体があったため除去した。					
		撮影日:5月16日				撮影日:9月3日					(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)

【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成27年7月15日にプランターへ播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
		個体No.① 樹高4cm、根元直径4mm 枯死した。									
		撮影日:5月16日									


【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成29年6月29日に新たに種子20個をプランターに播種し、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
		個体No.③ 樹高5.5cm、根元直径2mm 展葉した。	個体No.③ 樹高6cm、根元直径2mm	個体No.③ 樹高6.0cm、根元直径3mm 根元直径がやや太くなる。	個体No.③ 樹高6.0cm、根元直径3mm 樹高、根元直径に変化はない。	個体No.③ 樹高6.0cm、根元直径3mm 樹高、根元直径に変化はない。					
		撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)






平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【オニヒョウタンボク】

対象期間【令和1年5月～令和1年11月】




【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成29年3月14日に20本を挿し木し(発根促進剤使用)、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
		個体No.⑪ 枯死した。									
		撮影日:5月16日									

【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成29年3月14日に20本を挿し木し(発根促進剤使用)、以降、生育状況のモニタリングを実施。											
		個体No.⑰ 樹高21cm、根元直径6mm 5月9日に開花して展葉した。	個体No.⑰ 樹高21.5cm、根元直径6mm	個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元直径6mm	個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元直径6mm 樹高、根元直径に変化はない。葉の一部が枯れている。	個体No.⑰ 樹高23.0cm、根元直径6mm 樹高、根元直径に変化はない。葉の一部が枯れている。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
		撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					


【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成31年3月8日に18本を挿し木(発根促進剤使用)。 〈挿し木条件〉 発根まで半日陰で発根後に日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗)											
		18本中の16本で展葉あり。	18本中の6本で葉あり。	18本中の4本で葉あり。	18本中の4本で葉あり。	18本中の4本で葉あり。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
		撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					

平成31年度 新クリーンセンター環境影響評価事後調査(動物・植物)業務 事後調査の経過一覧表
 対象種【オニヒョウタンボク】

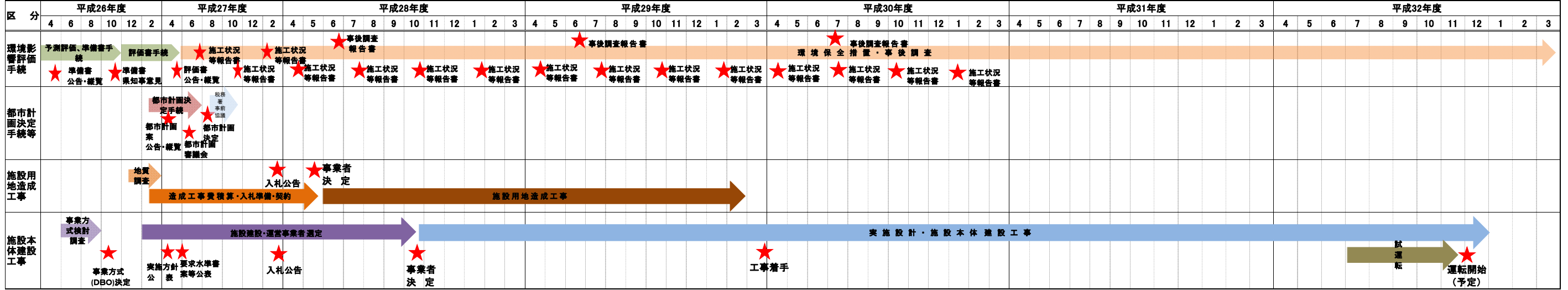
対象期間【令和1年5月～令和1年11月】

【措置項目】個体の生育確認及び管理

事後調査の内容	平成31年4月	令和1年5月	令和1年6月	令和1年7月	令和1年8月	令和1年9月	令和1年10月	令和1年11月	令和1年12月～令和2年3月		
平成31年3月8日に18本を挿し木(発根促進剤使用)。 <挿し木条件> 挿し木から発根後まで日向で育苗(駄温鉢平鉢とポリポットごとに鹿沼土、赤玉土、赤玉土+腐葉土で育苗)											
		18本中の11本で展葉あり。	18本中の1本で葉あり。	18本全てで葉が無くなる。	18本全てで葉が無くなる。	18本全てで葉が無くなる。				(冬季及び降雪等で対象種が休眠期に当たり、生育状況に変化は見られないためモニタリングは実施しない。)	
		撮影日:5月16日	撮影日:6月11日	撮影日:7月12日	撮影日:8月16日	撮影日:9月3日					

◆施工状況等報告書添付資料「対象事業の実施状況一覧表」

1. 新クリーンセンター整備スケジュール(案)



2. 対象事業の実施状況一覧

年度 回数 報告対象期	平成27年度				平成28年度				平成29年度			
	第1回報告 4月～6月	第2回報告 7月～9月	第3回報告 10月～12月	第4回報告 1月～3月	第5回報告 4月～6月	第6回報告 7月～9月	第7回報告 10月～12月	第8回報告 1月～3月	第9回報告 4月～6月	第10回報告 7月～9月	第11回報告 10月～12月	第12回報告 1月～3月
実施状況	現在、造成工事等については、未着手である。 【都市計画決定手続】平成27年7月8日付けで本事業に係る都市計画が決定。 【敷地造成工事】造成計画の精査を実施。また、造成工事費の積算を行っている。	現在、造成工事等については、未着手である。 【用地取得に係る税務署事前協議】平成27年8月19日付けで本事業に係る用地取得のための税務署事前協議が完了。法人及び個人地権者と用地取得に係る契約を締結し、用地取得手続が概ね完了している。 【敷地造成工事】造成計画の精査を実施。また、造成工事費の積算を行っている。	現在、造成工事等については、未着手である。 【用地取得関係】平成27年11月26日付けで本事業に係る用地取得のための税務署事前協議が完了。法人及び個人地権者と用地取得に係る契約を締結し、用地取得手続が概ね完了している。 【敷地造成工事】造成工事費の積算を行い、精査を実施している。	現在、造成工事等については、未着手である。 【敷地造成工事】平成28年3月14日付で入札公告、同3月30日に入札が行われた。残土運搬先について、該当する個人地権者へ説明。一部から了承を得られた。 【施設本体建設工事】平成28年3月14日付で入札公告、参加表明締結を同4月28日に予定している。	平成28年6月6日、敷地造成工事に着手した。同日付で「対象事業着手報告書」を県へ提出した。 【敷地造成工事】6月は準備工として、敷地内の伐採と測量作業を行った。 【施設本体建設工事】平成28年4月28日付で入札参加表明を締結し、同6月27日付で提案書の提出を受付けた。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】敷地の掘削を開始した。管渠工事が完了した。 【施設本体建設工事】平成28年8月9日に開札及び総合評価を実施した。同9月1日、落札者決定について公表した。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】掘削が続いている。 【施設本体建設工事】平成28年10月25日建設請負契約を締結。実施設計協議を開始した。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】テールアルメ擁壁の地盤改良の準備を進め、開始した。 【施設本体建設工事】実施設計協議を継続中。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】テールアルメ擁壁の地盤改良を終え、擁壁本体の施工に着手した。 【施設本体建設工事】実施設計協議を継続中。 【植栽工事】隣接地との境界へ植栽を開始した。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】テールアルメ擁壁の一部が、最上段まで積み上がった。ブロック積工及び法面工に着手した。 【施設本体建設工事】実施設計協議を継続中。 【植栽工事】隣接地との境界への植栽が完了した。	建設予定地では、敷地造成工事が行われている。 【敷地造成工事】テールアルメ擁壁が完成し、敷地造成工事は、わずかな排水路工事を残すのみとなった。 【施設本体建設工事】実施設計が完了した。平成29年12月8日に行った建築確認の申請について、平成30年1月31日に手続きが完了した。公害防止関係、廃棄物の処理及び清掃に関する法律関係の届出等、監督官公庁への手続きが完了した。平成30年3月27日より山留工事に着手した。	建設地では、敷地造成工事が竣工し、建設工事に着手した。 【敷地造成工事】平成30年2月28日に竣工した。 【施設本体建設工事】実施設計が完了した。平成29年12月8日に行った建築確認の申請について、平成30年1月31日に手続きが完了した。公害防止関係、廃棄物の処理及び清掃に関する法律関係の届出等、監督官公庁への手続きが完了した。平成30年3月27日より山留工事に着手した。
年度 回数 報告対象期	平成30年度				平成31年度				平成32年度			
第13回報告 4月～6月	第14回報告 7月～9月	第15回報告 10月～12月	第16回報告 1月～3月	第17回報告 4月～6月	第18回報告 7月～9月	第19回報告 10月～12月	第20回報告 1月～3月	第21回報告 4月～6月	第22回報告 7月～9月	第23回報告 10月～12月	第24回報告 1月～3月	
実施状況	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】5月より杭工事に着手した。5月末よりごみピット掘削工事に着手した。6月末より工場棟(一部)基礎根切掘削工事に着手した。 【法面保護工事】敷地法面の植生工事に着手した。	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】杭工事、山留工事、ごみピット掘削工事が完了した。工場棟一階の躯体工事に着手した。 【法面保護工事】9月末に法面保護工事が完了した。	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】プラント架構の建て方工事に着手した。	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】事務所棟基礎工事に着手した。	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】事務所棟の基礎工事、工場棟の建築工事、プラント機械の設置工事を進めています。	建設地では、施設本体建設工事が行われている。 【施設本体建設工事】事務所棟の鉄骨工事、工場棟の建築工事、プラント機械の設置工事を進めています。						

施工状況(7月～9月)

実施月	実施状況	写真
7月	<p>【工場棟工事】</p> <p>A工区は、1階床コンクリート工事まで終わり、しばらくの間、資材置き場としています。</p> <p>B工区は、2階床までのコンクリート打設が終わり、2階柱・壁の鉄筋・型枠工事を進めています。</p> <p>C工区は、ボイラ及びダクトの組立工事を継続して行っています。</p> <p>D工区は、4階までの建方が終わり、屋根の鉄骨工事に移ります。</p> <p>E工区は、3階床のコンクリート打設が終わり、プラント機械の設置工事を行っています。</p> <p>【事務所棟工事】</p> <p>基礎・地中梁のコンクリート打設が終わり、埋戻しを行っています。</p>	
8月	<p>【工場棟工事】</p> <p>B工区は、2階柱・壁、3階床の配筋・型枠工事を進めています。</p> <p>C工区は、ボイラ及びダクトの組立工事、焼却炉内の耐火工事を継続して行っています。</p> <p>D工区は、4階及び屋根鉄骨の建方、機器の据付けダクトの組立工事を行いました。</p> <p>E工区は、プラント機械の設置工事を行い、3階床の防水工事を開始しました。</p> <p>【事務所棟工事】</p> <p>埋戻しが終わり、1階床の配筋、コンクリート打設を行いました。</p>	
9月	<p>【工場棟工事】</p> <p>B工区は、3階柱・壁、4階床の配筋・型枠工事を進めています。</p> <p>C工区は、焼却炉内の耐火工事、ボイラの水圧試験が終了し、ボイラの保温工事を開始しました。また、プラント機械・ダクトの組立工事を継続して行っています。</p> <p>D工区は、煙突の鉄骨工事、内部間仕切工事を開始しました。</p> <p>E工区は、3階床の防水工事が終了し、プラント機械の据付工事を再開しました。</p> <p>【事務所棟工事】</p> <p>鉄骨工事を開始しました。</p>	

◆施設建設工事中の施工業者による環境保全措置実施状況

調査年月日:2019年7月1日～9月30日

	調査対象事項	関連項目	環境保全措置の内容	実施状況			添付書類
				7月	8月	9月	
工事関係車両の走行	1 走行時間の分散	大気質、騒音、振動、 触れ合い活動の場	工事関係車両の走行が集中しないよう走行の時期・時間の分散に努める。 特に朝の通学時間帯は極力避けるように配慮する。	○	○	○	写真1 参考資料1(非公開)
	2 交通規制等の遵守	大気質、騒音、振動、 触れ合い活動の場	工事関係車両は、速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、 標示規制等を遵守するよう指導する。	○	○	○	写真1 参考資料1(非公開)
	3 アイドリングストップ・エコドライブの励行	大気質	工事関係車両のアイドリングストップ・エコドライブを徹底する。	○	○	○	写真1
	4 土砂運搬車両等のタイヤ洗浄	大気質	建設地から退出する工事関係車両等の洗車を適宜実施する。	○	—	—	写真2
	5 工事車両出入り口の路面洗浄等	大気質	建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等を行う。	○	○	○	写真3
	6 土砂搬出車両荷台のシート掛け	大気質	土砂を搬出入する場合の車両荷台へのシートの敷設を行う。	—	—	—	—
	7 交通整理員の配置	触れ合い活動の場	スキー場の営業期間中については、必要に応じて交通整理員を配置 するなど、出入口付近での車両の交錯を防止する。	○	○	○	写真4
	8 北パパラダを利用する一般車両への配慮	触れ合い活動の場	スキー場の営業期間中については、来場者が多くなる土・日曜日の 工事関係車両の走行を避けるように努める。	○	○	○	写真1 参考資料1(非公開)
建設機械の稼働	1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型)	大気質、騒音、振動、 動物、生態系、 触れ合い活動の場	建設機械は、排出ガス対策型、低騒音型、低振動型の使用や低騒 音型・低振動型工法の採用に努める。	○	○	○	写真5～10 参考資料1(非公開)
	2 建設機械稼働時間の抑制	大気質	建設機械は、アイドリングストップを徹底する。	○	○	○	写真11
	3 建設機械稼働時間の分散	騒音、振動、 触れ合い活動の場	建設機械の稼働台数が集中しないよう工事の時期・時間の分散に努 める。	○	○	○	写真11 参考資料1(非公開)

※実施状況欄 ○:実施 —:未実施(実施不要)

建設機械の稼働	調査対象事項	関連項目	環境保全措置の内容	実施状況			添付書類	
				7月	8月	9月		
土地造成、掘削、樹木の伐採	4	工事区域の仮囲い・遮音壁の設置	大気質、騒音	建設地周辺へ工事用仮囲いを設置する。 必要に応じて対象事業実施区域境界に遮音壁を設置する。	○	○	○	写真12
	5	工事区域への散水等	大気質、植物、生態系	建設中の構内道路への散水や鉄板の敷設等を行う。 散水を実施することで、粉じんの発生を防止し、周辺に生育する植物への影響を低減する。	○	○	○	写真13
	1	安全な掘削方法の検討	地形・地質	掘削工法の検討に当たっては、土地の安定性に十分に配慮する。	造成・掘削工事時 実施済み			—
	2	計画・設計時の配慮	地形・地質	施設計画において、安定計算の実施、マニュアル等に基づく適切な設計、浸食防止排水溝の設置等を行う。	計画時実施済み			—
	3		地形・地質	切土工事に際し、仮排水路への排水ができるようにし、沈砂池に集水して濁水の土砂を沈殿させてから放水する。	計画時実施済み			—
	4	工事計画の配慮	触れ合い活動の場	パラダの営業期間中の工事については、事業者と十分な協議を行い、スキー客への影響が極力小さくなるよう配慮する。	○	○	○	参考資料1(非公開)
	5	広範囲の裸地化の抑制	水質	段階的な切盛り工事の実施などの工事計画の検討により一時的な広範囲の裸地化を抑制する。	計画時実施済み			—
	6	工事区域外からの流入抑制	水質	工事区域の外周に仮設の雨水排水路を設置し、工事区域外からの雨水の流入を抑制し、濁水の発生量を低減する。	○	○	○	写真14
	7	造成工事の休止	水質	台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成工事を行わない。	造成工事時 実施済み			—
	8	造成面等からの濁水発生対策	水質	台風、集中豪雨等が予想される場合には、造成面、仮置き残土等へのシート、土嚢による養生等の対策を講じる。	造成・掘削工事時 実施済み			—
	9	沈砂池等の設置、維持管理	水質	十分な貯留容量を有する沈砂池を設置し、雨水を一時的に貯留し濁水の土砂を沈殿させてから放流する。	造成・掘削工事時 実施済み			—
10	雨水排水の濁りの監視	水質	降雨時には速やかに雨水排水の濁りの状況を目視により確認し、濁りが認められた場合には濁水を沈降させ、上澄みを放流する。	造成・掘削工事時 実施済み			—	
11	雨水排水の水温の監視	水質、植物、動物、生態系	排水温度の変化に伴う動植物への影響の可能性の観点から、放流水の水温について監視する。	○	○	○	写真15	

※実施状況欄 ○：実施 一：未実施(実施不要)

調査対象事項		関連項目	環境保全措置の内容	実施状況			添付書類
				7月	8月	9月	
土地造成、掘削、樹木の伐採	12	揚水量を低減する掘削工法等の検討	水象	揚水量を低減する効果的な掘削工法等を検討する。			—
	13	止水壁等の設置による水位低下の防止	水象	止水壁を透水性の低い層まで設置する等により地下水水位低下の防止を図る。			—
	14	コナラ林の改変の回避	生態系	対象事業実施区域南側のコナラ林の改変を回避する。			—
	15	対象事業実施区域境界の林縁保護	植物、動物、生態系	○	○	○	写真16
	16	対象事業実施区域周辺で営巣が確認された場合の工期変更等	動物、生態系	—	—	—	—
	17	工事関係者への啓発(動植物等)	植物、動物、生態系	○	○	○	写真17 参考資料1(非公開)
	1	中和処理	水質	○	○	○	写真18
舗装工事・コンクリート工事	2	水素イオン濃度の監視	水質	○	○	○	写真19
	1	建設発生土の再利用	廃棄物等	掘削土砂については本事業の敷地内や他事業での再利用に努め、残土の発生を抑制する。			参考資料2(非公開)
	2	公共事業等での有効利用	廃棄物等	場外搬出する残土については、他の公共事業での有効活用を図り、処分量の低減を図る(受け入れ先は組合で決定)。			参考資料2(非公開)
	3	アスファルト・コンクリート塊、木くず、伐採木等の再生利用	廃棄物等	—	—	—	—
	4	現場での分別排出	廃棄物等	○	○	○	写真20
5	適正な管理(土壌)	廃棄物等	発生した廃棄物については、可能な限り現場で分別を行い排出する。 自然由来により残土が汚染されている場合もあることから、処分方法に応じた適切な搬出土の管理を行う。			—	

※実施状況欄 ○:実施 —:未実施(実施不要)

	<p style="text-align: center;">写真1</p> <p>工事関係車両の走行 No.1 走行時間の分散 No.2 交通規制等の遵守 No.3 アイドリングストップ・エコドライブの励行 No.8 北パラダを利用する 一般車両への配慮</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/15</p>
 <p>工事名称 19.7.6 東海北陸自動車道新大久保IC工事(1) 建設工事 工 種 環境保全 種 別 工事関係車両の走行 4 19.7.6 土砂運搬車両等のタイヤ洗浄</p> <p>撮影年月日 2019/07/06 施 工 場 所 大久保IC</p>	<p style="text-align: center;">写真2</p> <p>工事関係車両の走行 No.4 土砂運搬車両等の タイヤ洗浄</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/6</p>
 <p>工事名称 19.8.1 東海北陸自動車道新大久保IC工事(1) 建設工事 工 種 環境保全 種 別 工事関係車両の走行 3 19.8.1 工事関係車両出入り口の路面洗浄等</p> <p>撮影年月日 2019/08/01 施 工 場 所 大久保IC</p>	<p style="text-align: center;">写真3</p> <p>工事関係車両の走行 No.5 工事用車両出入り口の 路面洗浄等</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/1</p>

 <p>工事件名 中山道中津川橋梁改修工事(中山道中津川橋梁改修工事) 橋梁改修工事 工 種 橋梁改修 種 別 工事関係車両の走行 7 19.7月 交通整理員の配置 撮影年月日 2019/07/17 施 工 者 株式会社 〇〇〇〇</p>	<p style="text-align: center;">写真4</p> <p>工事関係車両の走行 No.7 交通整理員の配置</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/17</p>
 <p>工事件名 中山道中津川橋梁改修工事(中山道中津川橋梁改修工事) 橋梁改修工事 工 種 橋梁改修 種 別 建設機械の稼働 1 19.7月 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型) 撮影年月日 2019/07/17 施 工 者 株式会社 〇〇〇〇</p>	<p style="text-align: center;">写真5</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型) ラフタークレーン 25t</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/17</p>
 <p>工事件名 中山道中津川橋梁改修工事(中山道中津川橋梁改修工事) 橋梁改修工事 工 種 橋梁改修 種 別 建設機械の稼働 1 19.8月 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型) 撮影年月日 2019/08/01 施 工 者 株式会社 〇〇〇〇</p>	<p style="text-align: center;">写真6</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型) バックホー(0.45m³)</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/1</p>

 <div data-bbox="225 521 564 763" style="background-color: #006400; color: white; padding: 5px;"> <p>工事科目 中野区立 斎場副都立総合福祉センター建設工事 第1工区</p> <p>工 種 築造解体</p> <p>機 器 建設機械の稼働 1</p> <p>19.8月 (対策型建設機械の使用 排ガス対策型、低騒音型、低振動型)</p> <p>撮影年月日 2019/8/01 機 器 名 20190801001</p> </div>	<p style="text-align: center;">写真7</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型、低振動型)</p> <p>バックホー(0.7m³)</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/1</p>
 <div data-bbox="225 1093 580 1355" style="background-color: #006400; color: white; padding: 5px;"> <p>工事科目 中野区立 斎場副都立総合福祉センター建設工事 第1工区</p> <p>工 種 築造解体</p> <p>機 器 建設機械の稼働 1</p> <p>19.7月 (対策型建設機械の使用 排ガス対策型、低騒音型、低振動型)</p> <p>撮影年月日 2019/7/22 機 器 名 20190722001</p> </div>	<p style="text-align: center;">写真8</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型)</p> <p>クローラークレーン 55t</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/22</p>
 <div data-bbox="225 1704 564 1944" style="background-color: #006400; color: white; padding: 5px;"> <p>工事科目 中野区立 斎場副都立総合福祉センター建設工事 第1工区</p> <p>工 種 築造解体</p> <p>機 器 建設機械の稼働 1</p> <p>19.8月 (対策型建設機械の使用 排ガス対策型、低騒音型、低振動型)</p> <p>撮影年月日 2019/8/01 機 器 名 20190801001</p> </div>	<p style="text-align: center;">写真9</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型)</p> <p>クローラークレーン 120t</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/1</p>

	<p style="text-align: center;">写真10</p> <p>建設機械の稼働 No.1 対策型建設機械の使用 (排ガス対策型、低騒音型)</p> <p>クローラークレーン 200t</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/17</p>
	<p style="text-align: center;">写真11</p> <p>建設機械の稼働 No.2 建設機械稼働時間の抑制</p> <p>No.3 建設機械稼働時間の分散</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/26</p>
	<p style="text-align: center;">写真12</p> <p>建設機械の稼働 No.4 工事区域の仮囲い ・遮音壁の設置</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/17</p>

 <p> <small>工事件名</small> 国土交通省 国土院建設局国土院建設部国土院建設部第一土木部建設工課 <small>工 種</small> 建設安全 <small>種 別</small> 建設機械の稼働 ① 19.8月 工事区域への散水等 <small>撮影年月日</small> 2019/08/01 <small>施 工 場</small> ① </p>	<p>写真13</p> <p>建設機械の稼働 No.5 工事区域への散水等</p> <p>撮影日 2019/8/1</p>
	<p>写真14</p> <p>土地造成、掘削、樹木の伐採 No.6 工事区域外からの流入抑制</p> <p>撮影日 2019/7/17</p>
 <p> <small>工事件名</small> 国土交通省 国土院建設局国土院建設部国土院建設部第一土木部建設工課 <small>工 種</small> 建設安全 <small>種 別</small> <small>撮影年月日</small> <small>施 工 場</small> ① </p>	<p>写真15</p> <p>土地造成、掘削、樹木の伐採 No.11 雨水排水の水温の監視 28℃</p> <p>撮影日 2019/8/5</p>

	<p style="text-align: center;">写真16</p> <p>土地造成、掘削、樹木の伐採 No.15 対象事業実施区域境界 の林縁保護</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/7/17</p>
	<p style="text-align: center;">写真17</p> <p>土地造成、掘削、樹木の伐採 No.17 工事関係者への啓発 (動植物等)</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/9/24</p>
 <div data-bbox="220 1709 560 1944" style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px;"> <p>工事名称 中野川河川、奥野川河川沿道整備事業(第1期) 建設工事</p> <p>工 種 環境保全</p> <p>種 別 舗装工事・コンクリート工事 1</p> <p>19.8月 中和処理</p> <p>撮影年月日 2019/08/05 撮 影 者 江崎 浩一</p> </div>	<p style="text-align: center;">写真18</p> <p>舗装工事・コンクリート工事 No.1 中和処理</p> <p style="text-align: right;">撮影日 2019/8/5</p>



写真19

舗装工事・コンクリート工事
No.2
水素イオン濃度の監視
PH6(環境基準8.5以内)

LOTNo.70929024

撮影日 2019/8/5



写真20

発生土、建設廃棄物、伐採木
No.4
現場での分別排出

撮影日 2019/7/24